

## 2018年度ユニーク修士論文・博士論文

理工学 研究科

担当教員名	片寄 晴弘
論文執筆者名	安東 俊之介
論文の題 (テーマ)	UPP(Unreal Prank Painter): 悪戯の楽しみに着目した落書きコンテンツ
簡単な内容 (概要)	人間には、「ダメと言われるとやりたくなる心理」が存在する。それによって引き起こされる行動の一つに「悪戯」がある。悪戯は社会的に不適切でありながら、意図的な害を目的としていない行動であり、社会に深刻なダメージがない限り、悪戯はエンターテインメントになり得る。本研究では、悪戯の中でも「落書き」に注目し、現実空間で仮想的な落書きを行う AR アプリケーション Unreal Prank Painter (UPP)を開発した。UPPでは、現実空間中の平面を推定し、その平面に仮想に落書きを行う機能、また、アプリ上で当該の場所に描かれた落書きを閲覧する機能が実装されている。これらの機能により、利用者らは、現実とサイバー空間とをリンクした、いわば、拡張された落書きを楽しむことができる。
推薦の理由	IT技術の進展により、我々の社会生活は大きく変わりつつある。その一つにエンターテインメントの分野も含まれる。一昨年、AR技術とGPS位置情報技術を組み合わせたスマートフォン向けゲーム「ポケモンGO」のサービスが開始された。これらのエンターテインメントは単なるゲームの枠を超えて、さまざまな社会的なインパクトを与えたことは記憶に新しい。そのような中、本研究は、「悪戯」、具体的には、「落書き」に注目し、サイバー社会におけるエンターテインメントコンピューティングのあり方について一つの問いを投げかけた。本研究は、具体的に動作するシステムとして実装され、そのデモンストレーションに対する学術審査の結果、主張するエンターテインメントデザインの有効性に対して、Qualified認定を受けている。本研究の内容については、自身により、関連国際学会での口頭発表も行われている。以上、推薦に値する研究であると評価する。